

6

昆 虫 類

クロエグリオオキノコムシ

Megalodacne immaculata Chujo et Kiuchi, 1963

甲虫目オオキノコムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

近年未確認である。

分布の概要

眉山で採集された Holotype (♀) しか知られていない。その後、本種を目的とした調査を何回行っても発見できず、すでに絶滅したのものと考える。

県内の生息状況

タイプ以外に標本がないというのをどう評価するか難しいところであるが、本種を採集することを目的にこれまで調査をくり返してきてもまったく得られておらず、現時点ではすでにいなくなったと考えざるを得ない状況である。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化、灯火の設置も悪影響を及ぼす。

モートンイトトンボ

Mortonagrion selenion (Ris, 1916)

トンボ目イトトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

北海道南部、本州、四国、九州に分布するが産地はやや局地的である。平地や丘陵地の背丈の低い草が繁茂した湿地や水田に生息する。四国南部でも生息地が減少傾向にあるようである。県内での成虫の出現期は5月中旬から9月下旬である。

県内の生息状況

小松島市、池田町、上勝町、海南町に記録があるが、現在、確実な産地は池田町のみで、近年、個体数の減少傾向が顕著である。

生存に対する脅威

農業改善事業によるほ場整備、湿地の乾燥化などにより、生息地が失われている。

コバネアオイトトンボ

Lestes japonicus Selys, 1883

トンボ目アオイトトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

選定理由

近年未確認である。

分布の概要

本州、四国、九州に分布するが産地はかなり局地的である。平地や丘陵地の挺水植物の繁茂する池沼に生息する。

県内の生息状況

これまでの知られている県内の産地は徳島市丈六町、八多町のみであり、確実な産地であった丈六町の池沼は開発により埋め立てられ消滅している。1968年11月24日の1♀以降記録はない。四国でも確実な産地は1箇所にすぎない。

生存に対する脅威

本種の生息地であった池沼は、開発により埋め立てられ消滅してしまったようである。

タベサナエ

Trigomphus citimus tabei Asahina, 1949

トンボ目サナエトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産亜種で静岡、岐阜県以西の本州、四国、九州に分布。平地や丘陵地の緩やかな流れの小川に生息するが、挺水植物の繁茂する池沼でも見られる。

県内の生息状況

これまでの記録は徳島市、山川町、脇町であるが徳島市では1950年以降記録がなく、山川町の産地も埋め立て、溜池改修工事によって、それ以後記録がない。現在確実な産地がなく、数例の記録があるのみである。

生存に対する脅威

開発による埋め立てや、水質悪化が原因と思われる。

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina, 1949

トンボ目サナエトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

近年未確認である。

分布の概要

日本特産種で長野、岐阜県以西の本州、四国、九州に分布するが、四国での確実な産地は知られていない。主に平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼に生息する。

県内の生息状況

徳島市、鳴門市での記録があるものの、1973年5月29日の1♀以降記録がなく、四国でも現在確実な産地は知られていない。

生存に対する脅威

本県で近年生息が確認できなくなった原因は、水質悪化等も考えられるが不明である。他県での生息地では、本種は普通種として健在である。

ベッコウトンボ

Libellula angelina Selys, 1883

トンボ目トンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

I類

選定理由

全国的に少なく、近年未確認である。

分布の概要

宮城県以南の本州、四国、九州に記録があるが、産地はきわめて限定され、各産地で絶滅が危惧されている。平地、丘陵地の挺水植物の繁茂する池沼に生息する。

県内の生息状況

阿南市で記録があるが、1971年以降記録がない。阿南市での記録も迷トンボの可能性もある。本県においてはすでに生息していない可能性がある。

生存に対する脅威

生息地の水質悪化も本種減少の要因と考えられるが、本種が生息するためには周辺にねぐらとなる草原が必要であるため、このような周辺の開発も大きな原因と思われる。

タガメ

Lethocerus deyrollei (Vuillefroy, 1864)

カメムシ目コオイムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から沖縄に広く分布する最大の水生半翅類で、水生昆虫の中では最上位に位置する肉食の大型昆虫。水田やその周辺の止水域を中心に生活するために、戦後の農薬の大量使用、それに伴う餌の小魚やドジョウ、カエルなどの減少により、個体数はかなり減少した。その後、水銀灯などが設置されるに従い、短時間に激減した。ほとんどの場所ではすでに絶滅していると考えられる。

現在、我が国の平地ではほとんど見られない。かろうじて生き残っているのは、水田が多く、その周辺に池などがあり、さらにまわりに水銀灯などの街路灯や、橋、トンネルなどの照明がない山間部に限られてきている。

県内の生息状況

徳島市内でも約40年ほど前から、あちこちに水銀灯が設置されるようになり、眉山や徳島駅前のバスのターミナルなどに照明がついた頃には、大量のタガメが飛来し、踏みつけられた死体が山のようにになっていたという話を聞いている。しかし、このような現象は1-2年しか続かず、飛来した個体はすべてそこで死んでいったものと思われる。このような性質を持つが故に、その付近の本種が絶滅状態になるのはわずか1-2年しかかからず、現在では、くり返し調査を行っても発見できていない。山間部での個体の減少あるいは絶滅を引き起こしたのは、街路灯の設置と共に、学校の校庭に設置された夜間の校庭解放のための照明装置であったと思われる。

現在、徳島県で生息が確認されているのは1箇所だけである。

生存に対する脅威

埋め立てや開発などによる生息地の破壊。

カワラハンミョウ

Cicindela laetescripta Motschulsky, 1860

甲虫目ハンミョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅱ類

選定理由

近年未確認であり、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

1959年に、徳島市不動町の鮎喰川原で2頭発見、そのうち1頭を採集したという記録があるだけで、その後の追加記録はない。現在ではこの付近の環境も悪化しており、すでに見られなくなっているのではないと思われる。しかし、徳島県立博物館にはこの記録に発表されたもの1頭と、麻植郡山川町のラベルの付いたものが1頭所蔵されており、文献には現れないが、山川町山瀬の吉野川の川原で採集されたものと判明した。

本種は、他の産地での情報によると、乾いた白い砂地で活動し、暑い夏に多く見られる。南九州での観察によれば、日中は太陽を遮蔽するようなものがあるとその陰で休息しているのをよく見かけるといふ。

県内の生息状況

長い間、不動の鮎喰川原で採集されたもの1頭だけとされてきたが、今回の調査中に、吉野川中流域の山川町でも採集されていることが判明し、調査範囲が急に広がった。しかしながらどちらの記録も40年前のものであり、その後の池田ダムの完成による砂の減少、加えて高度成長期の吉野川川原からの川砂採取など、相当の環境変化が起こったことは間違いない。

現在も本種が生き残っているかどうかは、確認できていないが、河口域から中流域までの広い範囲で生息の可能性があり、吉野川の中州の調査を継続的に行う必要がある。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）や砂、砂利の採取などによる環境悪化

特記事項

麻植郡山川町に間違いないとすれば、吉野川の中流域にもその当時は分布していたことになる。データは徳島市不動町の個体と同じ1959年である。

ヨドシロヘリハンミョウ

Cicindela inspecularis W.Horn, 1904

甲虫目ハンミョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

II類

選定理由

近年未確認であり、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州と朝鮮半島、中国、台湾に分布する。生息地は河口域で、潮の干満により、水没あるいは陸地化を繰り返すようなアシ原群落周辺の砂泥地である。完全な砂地ではなく、やや泥の多い環境に見られる。

県内の生息状況

徳島では、吉野川から津田海岸、勝浦川河口域に多産するとされていたが、近年は吉野川河口域での1989年7月の♀1個体の記録を最後に確認されていない。

勝浦川河口にはまだ生息可能と思われる環境があり、継続して調査を行う必要がある。津田海岸はすでに生息の可能性はないものと思われる。吉野川河口域は、過去に記録のある南岸だけでなく、北岸側にも生息しているのではないかとと思われる環境があり、継続して調査を行う必要がある。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）などによる環境悪化。

ヒサゴチビゴミムシ

Iga formicina S.Ueno, 1953

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

徳島県と高知県の一部の1000m以上のピークを持つ山系の、750mくらいから上の地域に生息する。

県内の生息状況

県内では、吉野川以南のブナ帯にしか生息しない。四国東部特産種で、個体数は少ない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ケンザンメクラチビゴミムシ

Trechiana chikaichii S.Ueno, 1957

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

剣山と、その周辺域の地下浅層に生息する。

県内の生息状況

本種は地中性の種であり、剣山とその周辺の地下浅層しか産地がなく、特異な分布をする種である。

生存に対する脅威

生息地が乾燥すると絶滅する。伐採などによる乾燥が一番の脅威である。

サダミツメクラチビゴミムシ

Trechiana longicollis S.Ueno, 1986

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県貞光町にある枇杷ノ口第1坑、別子鉱、鳴滝鉱、土釜第5坑でしか得られていない。

県内の生息状況

本種は採集されている場所が洞窟であり、その付近だけに分布する種である。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

カワノメクラチビゴミムシ

Trechiana kawanoi S.Ueno, 1975

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島市鮎喰町の鮎喰川原でしか得られていない。

県内の生息状況

本種は地下浅層あるいは地中性の種であると思われるが、模式標本1個体のみしか知られていない。洪水により、生息地の土砂流出で流されてきたものと思われており、その後の度重なる調査にもかかわらず、生息地の確認はできていない。鮎喰川流域の河岸に生息地はあるものと思われる。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）などによる環境悪化。

タラメクラチビゴミムシ

Trechiana asymmetricus S.Ueno, 1990

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県海部郡海南町の多良鉱山からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、多良鉱山以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

アナゼメクラチビゴミムシ

Trechiana setosus S.Ueno, 1990

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県海部郡海南町相川の穴瀬鉱山からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、穴瀬鉱山以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

アオイシメクラチビゴミムシ

Trechiana duplicatus S.Ueno, 1986

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県三好郡池田町大利の青石鉱山からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、青石鉱山以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

リュウノメクラチビゴミムシ

Awatrechus hygrobis S.Ueno, 1955

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ 絶滅危 I 類 環 庁カテゴリ 絶滅危 I 類

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県阿南市加茂町龍ノ窟でしか見つかっていない。

県内の生息状況

洞穴性の種である。模式標本の産地である龍ノ窟は、現在は石灰岩の採掘のために、完全に破壊されてしまっている。付近の石灰岩の隙間などに生息しているのではないかと考えられる。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

ゼンジョウメクラチビゴミムシ

Awatrechus religiosus S.Ueno, 1957

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県勝浦郡上勝町の禪定窟と帆柱ノ岩屋でしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、禪定窟と帆柱ノ岩屋以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

トウゲンメクラチビゴミムシ

Awatrechus pilosus S.Ueno, 1957

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県那賀郡木沢村高野の桃源第 1、第 2 及び第 3 洞と、名西郡神山町拝府にある拝府の水抜穴以外では得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、桃源第 1、第 2、第 3 洞及び拝府の水抜穴以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

ヨシダメクラチビゴミムシ

Awatrechus yoshidai S.Ueno, 1969

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県那賀郡上那賀町の日店洞からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、日店洞以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

ツルサンメクラチビゴミムシ

Awatrechus persimilis S.Ueno, 1969

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島市の津田町津田海岸に洪水で流れ着いた1個体で新種記載された。その後勝浦町鶴林寺山の南西に位置する阿南市大井町の人工の水抜き穴（通称臼台の横井戸）に生息することが確認され、鶴林寺山の地中に生息するものとして生息地が確定された。

県内の生息状況

阿南市大井町の水抜き穴は、洞口がコンクリートで固められ見られなくなったが、地中には生息するものと思われる。

生存に対する脅威

水抜き穴周辺的环境悪化。森林伐採による乾燥化など。

インベノメクラチビゴミムシ

Awatrechus bisetiger S.Ueno, 1973

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県美馬郡木屋平村八幡にある忌部の穴からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、忌部の穴以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

キウチメクラチビゴミムシ

Himiseus kiuchii (S.Ueno, 1969)

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県那賀郡上那賀町の日店洞からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、日店洞以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

ヒミセメクラチビゴミムシ

Ryugadous awanus S.Ueno, 1969

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県那賀郡上那賀町の日店洞からしか得られていない。

県内の生息状況

洞穴性の種であり、日店洞以外の産地は知られていない。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

シコクオオズナガゴミムシ

Pterostichus yoshidai Kasahara, 1985

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県名西郡神山町雲早山及び剣山からの4個体（1♂3♀）しか知られていない。

県内の生息状況

産地が限定され、個体数も少ない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化（乾燥）。

オオトックリゴミムシ

Oodes vicarius Bates, 1873

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州に分布。徳島では、徳島市名東町にある地蔵池の水際でしか見つけていなかった。当時は類似環境のほかの池には全く見られないという特異な分布であった。地蔵池は上のゴルフ場の造成中に、土砂流出のためかなり埋まってしまった。その後土砂を取り除いたが、繰り返し調査を行ったにもかかわらず、本種は全く発見できなくなり、すでに徳島県の産地はなくなったと考えられていた。しかし、最近川島町の吉野川河川敷内の止水環境から発見され、かろうじて県内にも生息していることが再確認された。

県内の生息状況

県内での唯一の既知産地が破壊されたために、県内では絶滅と考えざるを得ないと思われていた。また、類似環境での発生はそれまでの調査で発見されず、ほとんど期待できないと考えていたが、新たな産地が発見されたことにより、極めて少数個体ではあるがまだ生存していたことが明らかにはなった。しかしながら、不安定な環境であることには変わりなく、絶滅が心配される。

生存に対する脅威

埋め立てや開発などによる生息地の破壊。

リュウノイワツヤムネハネカクシ

Quedius kiuchii Watanabe et Yoshida, 1970

甲虫目ハネカクシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

I類

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

阿南市加茂町の竜ノ窟でしか見つかっていない。竜ノ窟は完全に破壊されてしまっているが、付近の石灰岩の隙間などでの生息が期待される。

県内の生息状況

竜ノ窟は石灰岩採掘のために破壊されてしまって、今はなくなっているため、本種の模式産地は消滅したことになる。しかしながら、洞穴性の種であり、付近は石灰岩の割れ目の多い地域であることから、生息している可能性は高い。

生存に対する脅威

洞穴、坑道及び類似環境の消滅。

ゲンゴロウ

Cybister japonicus Sharp, 1873

甲虫目ゲンゴロウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道を除く各地に広く分布していたが、現在ではほとんど見られない。本種も大型の肉食水生昆虫で、水系の環境悪化により激減している。また、光にも引き寄せられる性質が強く、光による個体数の減少は相当深刻である。

県内の生息状況

各地に見られた種であるが、タガメと同様に農薬汚染による減少、その後の水銀灯などの設置によって誘引され、発生地から離れることによる死亡などで、県内でもほとんど見られなくなった。現在生息が確認されているのはわずかに1箇所である。

生存に対する脅威

埋め立てや開発などによる生息地の破壊・水銀灯などの誘引光源。

コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner, 1931

甲虫目ゲンゴロウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

絶滅危

I類

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道を除き、南西諸島まで各地に広く分布していたが、現在ではほとんど見られない。和名と違ってかなり大型の水生昆虫である。近年の水系の環境変化は本種を含む水生昆虫にとっては、生息場所を一瞬にして失うほどのものが多い。ため池の消滅、水路のコンクリート化などは最大のマイナス要因と考えられる。

県内の生息状況

現在、本県で生息が確認できているのは1箇所だけである。

生存に対する脅威

埋め立てや開発などによる生息地の破壊・水銀灯などの誘引光源。

アワキマダラコメツキ

Gamepenthès yoshidai Ohira, 1995

甲虫目コメツキムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

那賀郡木沢村高城山と、剣山の標本に基づいて記載された徳島県特産種である。

県内の生息状況

記載時に用いられた標本以外には確認例はなく、きわめて少ない種である。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化。

ツルギテントウダマシ

Panamomus yoshidai Kiuchi, 1972

甲虫目テントウダマシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

剣山の見ノ越より上と、夫婦池付近からしか見つかっていない。個体数は少ない。

県内の生息状況

剣山山系の落葉層中でしか見つかっておらず、徳島県だけに分布すると考えられる。個体数も少なく、希少である。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化（乾燥）。

チャマダラセセリ

Pyrgus maculatus maculatus (Bremer & Grey, 1852)

チョウ・ガ目セセリチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環 庁カテゴリ

絶滅危

I類

選 定 理 由

全国的に少なく、県内の産地が局地的であり、近年生息の確認ができていない。

分布の概要

全国的に産地、個体数共に減少が目立つ種である。

県内の生息状況

産地が局所的で個体数が減少。絶滅の恐れもある。これまでの産地ではまったく記録がなくなっている。近年、山城町で採集されていたが、ここ2-3年ほとんど見られなくなった。1998年には、それまでかなり見られた所でも数頭しか記録がなくなり、県内の産地はきわめて危険な状態である。人の手が入らなくなった（採草や火入れなど）ことにより、幼虫の食草（ミツバツチグリなど）がほかの植物に覆われて利用できなくなったりしたことが減少の最大の原因と考えられているが、採集圧もかかっていると思われる。

生存に対する脅威

草原の草刈りなどの管理が行われなくなったための、食草の減少や生息環境悪化。

台湾ツバメシジミ本土亜種

Everes lacturnus kawaii Matsumura, 1926

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

選定理由

全国的に少なく、近年未確認である。

分布の概要

徳島県では海部郡牟岐町の海岸でのみ確認されていたが、近年は見られない。食草も減少しており、近年の調査では本種の生息は確認できていない。

県内の生息状況

近年、徳島県における本種の記録はまったくない。牟岐町の発生地にも食草はまったく見られなくなっており、その産地ではすでに絶滅したと考えられる。道路工事による生息地の破壊が大きな原因であるが、人手が入らなくなったための環境悪化もその一因と考えられる。しかし、県南の海岸域での全体的な調査は十分には行われていないため、絶滅種としては扱わなかった。

生存に対する脅威

放置されたことによる生息環境悪化（食草の減少など）や開発などによる生息地の破壊。

オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe (C. & R. Felder, 1862)

チョウ・ガ目タテハチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

環境カテゴリ

絶滅危Ⅰ類

選定理由

近年未確認である。

分布の概要

本州から九州まで分布。以前はどこでもそれほど少ない種ではなかった。特に火山性の草原が発達するような地域では個体数は多かった種である。しかし、1960年代から草原が放置され、人手が入らなくなってしまったことによると思われる減少が相次ぎ、現在は全国でほとんど見られない状態となっている。

県内の生息状況

全国に広く分布する種であったが、いずれの地域でも最近では全く見られなくなり、全国的に絶滅が心配される状態となっている。現在生息が確認できる産地はきわめて少なく、その多くが自衛隊の演習地であるということもおもしろい現象である。減少の原因は、幼虫の食草である野生のスミレ類が、草刈りなどが行われなくなったために減少し、その結果本種も減少したのであろうと考える人は多い。徳島県では、脇町大滝山、吉野川河川敷、高越山、西祖谷山村、剣山山系などにかかり見られた種であるが、現在はまったく記録がなくなり、はたしてまだ生息している場所があるかどうか確認できない。

生存に対する脅威

放置されたことによる生息環境悪化（食草の減少など）。

オオミノガ

Eumeta variegata (Snellen, 1879)

チョウ・ガ目ミノガ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州(関東北部)から沖縄、対馬まで広く分布し、いわゆるごく普通のミノムシの代表種である。人家周辺に多く見られ、葉の落ちた後の樹木にぶら下がる本種のミノは、秋から冬の風物詩ともいえるものであった。ところがここ数年間の間に、中国から侵入したと思われる寄生バエ(*Nealsomyia rufella* (Bezzi, 1925) [オオミノガヤドリバエ、仮称])のために、九州ではすでにほぼ絶滅状態にあり、中国地方では日本海側の一部の地域だけにわずかに残り、近畿圏でもほぼ絶滅状態、関東では山梨県の一部ではまだ見られるとのことであるが、個体数は激減している。四国では高知県、愛媛県でもまだわずかに残っているが、すでに寄生バエは入っており、絶滅が心配されている。

県内の生息状況

徳島県内では、徳島市を中心とする平野部ではすでにほぼ全滅状態で、阿波町付近までは生きているミノ(幼虫)を確認できなかった。しかし、1998年には脇町から高松市に抜ける道路沿いで複数頭の生きたものを見いだした。飼育した結果、ハエが出たものもあったが、オオミノガのオス・メスともに無事に羽化し、産卵をさせることもできた。1999年の1月まではまだこの地域ではオオミノガが生き残っているのを確認した。なぜこの地域ではハエもいるのに生き残れているかは不明であるが、今後も継続して調査を行う必要がある。

県南部や池田町などはまだ十分には調査できていない。

このハエは、オオミノガ以外のミノガ、あるいはほかの鱗翅類に寄生することは知られておらず、オオミノガだけを利用する種であるとされている。このような場合、自分のホストを全滅させるような寄生を行うことは一般には考えにくいことであるが、現実起こっており、今後はそのような問題を含めた寄生方法なども調査していく必要がある。ほかに地域ではすでにそのような調査ができない状態になっており、四国は貴重な場所となっている。

生存に対する脅威

寄生バエ。

ナゴヤサナエ

Stylurus nagoyanus (Asahina, 1951)

トンボ目サナエトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

II類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が局地的で個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で北海道、本州、四国、九州で記録があるが、産地は局地的である。主に大きな河川の下流域に生息するが、穴道湖のような汽水湖にも産する。

県内の生息状況

旧吉野川の下流域を生息地としており、四国では唯一の産地となっている。

生存に対する脅威

生活排水の流入による水質汚染や、護岸工事による河畔林の減少は本種の生殖活動の妨げとなる。

サラサヤンマ

Oligoaeschna pryeri (Martin, 1909)

トンボ目ヤンマ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で北海道、本州、四国、九州に分布するが産地は局地的である。主に丘陵地や低山地の湿地や休耕田に生息する。

県内の生息状況

勝浦町、阿南市、日和佐町、徳島市、鳴門市、川島町、池田町に記録があるが、産地は局地的である。埋め立て、湿地の乾燥化等により産地は減少傾向にある。

生存に対する脅威

湿地・休耕田の乾燥化、池沼の埋め立て等により、生息地そのものが失われている。

アオヤンマ

Aeschnophlebia longistigma (Selys, 1883)

トンボ目ヤンマ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

北海道南部、本州、四国、九州北部に分布する。主に平地や丘陵地のヨシ、ガマ等背丈の高い挺水植物の繁茂する池沼に生息する。

県内の生息状況

本県では数箇所記録があるものの、鳴門市周辺の産地を除いて個体数が少ない。

生存に対する脅威

池沼そのものの埋め立て、水質悪化が懸念される。また、ブラックバス等の外来肉食魚の移入によるヤゴの捕食も考えられる。

ネアカヨシヤンマ

Aeschnophlebia anisoptera Selys, 1883

トンボ目ヤンマ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

新潟県、関東地方以西の本州、四国、九州に分布するが生息地は限られる。平地や丘陵地のヨシやガマ等が繁茂した池沼や休耕田に生息する。

県内の生息状況

徳島市で1968年に1♂、阿南市で1965年に1♂の記録があるのみである。その後、未発表ではあるが、阿南市で1♂、1羽化殻記録がある。確実な生息地は見つかっていないが、最近増えた休耕田等で見つかる可能性がある。

生存に対する脅威

全国的には、休耕田を中心に分布が確認されているところもあるが、湿地の乾燥化、開発により生息地が失われつつある。

キイロヤマトンボ

Macromia daimoji Okumura, 1949

トンボ目エゾトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環境カテゴリ

絶滅危 II 類

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

福島県以南の本州、四国、九州に分布するが産地は限定されている。丘陵地、低山地を流れる砂質底のある河川中流域に生息。

県内の生息状況

小松島市、佐那河内村、板野町、藍住町で記録がある。板野町、藍住町を流れる旧吉野川の産地では個体数がある程度確認できるが、佐那河内村の園瀬川では個体数は少なく希である。

生存に対する脅威

県内では2箇所の生息地が知られているが、河川の護岸工事、周辺の開発により生息地が脅かされている。

ナニワトンボ

Sympetrum gracile Oguma, 1915

トンボ目トンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環境カテゴリ

絶滅危 II 類

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で近畿地方を中心に瀬戸内を面した地域に生息する。丘陵地の樹林に囲まれ、挺水植物の繁茂する池沼に生息する。

県内の生息状況

鳴門市、板野町、上板町、脇町で記録があるが、産地は局地的で個体数も少ない。四国では瀬戸内側に限られており、本県でも吉野川より北側にしか記録がない。

生存に対する脅威

池沼そのものの埋め立て、水質悪化が懸念される。

オオキトンボ

Sympetrum uniforme (Selys, 1883)

トンボ目トンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危 II 類

環境カテゴリ

絶滅危 II 類

選定理由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

本州、四国、九州北部に分布するが産地は局地的である。平地から丘陵地の挺水植物の多い開けた大きい池沼に生息する。

県内の生息状況

市場町、川島町、池田町、石井町（未発表）で記録がある。市場町の産地は埋め立てにより消滅しており、石井町の産地も公園化によってそれ以後確認できていない。川島町の産地は現在も健在であるが、個体数が少なく希である。

生存に対する脅威

現存の唯一の産地は吉野川河川敷内の池沼で耕作地に面しており、農薬等の流入、ゴミの投棄等が心配される。

トカラコミズギワゴミムシ

Paratachys troglophilus (S.Ueno, 1953)

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州から記録されているが、非常に少ない。複眼は退化傾向にあり、小さい。四国ではこれまでのところ、高知県の竜河洞と徳島県阿波郡阿波町にある地下水の水源でしか見つかっていない。

県内の生息状況

本種は洞穴や地中に生息し、きわめて特殊な環境に適応している種である。個体数も少ない。徳島では、暗渠から見ついているが、このような水田や耕作地に作られていたものは、ほとんど不要になっているか、コンクリート化されており、生息場所がなくなりつつある。

生存に対する脅威

埋め立てや開発などによる生息地の破壊。地下水源の消滅及び水質の悪化。

オオチャバネセセリ

Polytremis pellucida pellucida (Murray, 1875)

チョウ・ガ目セセリチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選定理由

近年未確認である。

分布の概要

各地に普通。まだたくさん見られる地域もある。しかし、四国各地で減少が報告されつつある。

県内の生息状況

県下でも普通に見られる種であった。ところが、最近まったく記録がなく、その原因もわからない。タケ類などのイネ科を幼虫の食草としていることから、食草の関係ではないと考えられるが、原因は不明である。四国各地で同様の状況になっている。

生存に対する脅威

個体数減少の原因は不明であり、調査が必要である。

ルーミスジミ

Panchala ganesa loomisi (H.Pryer, 1886)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から九州まで分布する。いずれの地域でも産地は局所的で点在する形である。個体数も少ない。幼虫の食樹はイチイガシが知られているが、ウラジロガシしかない場所での記録もあり、ウラジロガシも食樹となっている可能性は高い。イチイガシは木材としての価値が高く、一番に切られるということで、食樹の減少が懸念される。

県内の生息状況

徳島県では牟岐町、海南町に産することが知られている。四国でも高知県東洋町野根、北川村、窪川町、愛媛県では成川溪谷しか知られておらず、貴重な産地となっている。近年、徳島県那賀郡上那賀町での採集記録があるということであるが、公表はされておらず、確認できない。もともと局地的で、個体数は少なかったが、最近、かなり減少している。森林の伐採による生息環境の破壊が原因と考えられる。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

カラスシジミ

Strymonidia w-album fentoni (Butler, [1882])

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道から九州まで広く分布するが、幼虫の食樹であるハルニレ、オヒョウがなければ本種は生息せず、ハルニレの少ない四国では、本種も非常に少ない。現在までに知られている産地は、愛媛県伊予三島市などと、徳島県の三好郡の一部に限られている。

県内の生息状況

徳島県でも産地が局所的で、道路拡張工事などのため食樹が伐採され、最近激減している。食樹のハルニレの存在に全てがかかっているため、食樹の伐採が起こらないように早めに対策をこころじる必要がある。

生存に対する脅威

伐採による食樹・生息地の消失、環境悪化。

ウラギンスジヒョウモン

Argyronome laodice japonica (Menetries, 1857)

チョウ・ガ目タテハチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

個体数が近年減少してきている。

分布の概要

北海道から九州まで広く分布し、幼虫は野生のスミレ類を食べる。海岸部を除く平地から 1300m 付近で記録されているが、産地はやや局所的である。野生のスミレ類を幼虫の食草としている種で、近年個体数の減少が著しく、草原などの人的な環境の減少がこれらのチョウの発生にも大きく影響しているのではないかと考えられている。

県内の生息状況

徳島県は四国の中では、産地は少ない方である。平地・低山地からかなりの山地まで見られる種であったが、最近、個体数が激減している。スミレ類の減少や農薬散布、宅地化などの影響か？野生のスミレ類を利用できないような状態がこれ以上続くと、オオウラギンヒョウモンと同様に、徳島県あるいは四国でも絶滅がおこりかねないとする。

生存に対する脅威

幼虫の食草などの減少。

オオウラギンスジヒョウモン

Argyronome ruslana lysippe (Janson, 1877)

チョウ・ガ目タテハチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

個体数が近年減少してきている。

分布の概要

北海道から九州まで広く分布し、幼虫は野生のスミレ類を食べる。やや山地性で、4-500m から 1500-1600m 付近で記録されている。ほかのヒョウモン類もそうであるが、野生のスミレ類を幼虫の食草としている多くの種で、個体数の減少が著しく、人的な環境の減少がこれらのチョウの発生にも大きく影響しているのではないかと考えられている。

県内の生息状況

徳島県では大滝山、高越山、神山町などで記録され、四国の中では多い方とされていたが、最近、個体数が激減していると思われる。スミレ類の減少や農薬散布、宅地化などの影響が考えられる。ヒョウモンチョウ類は草原の減少により、全国的に危険な状態にある種が多いが、野生のスミレ類を利用できないような状態がこれ以上おこると、オオウラギンヒョウモン、ウラギンスジヒョウモンと同様に、徳島県あるいは四国でも絶滅がおこりかねないとする。

生存に対する脅威

幼虫の食草などの減少。

オオカワトンボ

Mnais nawai Yamamoto, 1956

トンボ目カワトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

中部地方以西の本州、四国、九州に分布する。平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する清流に生息する。

県内の生息状況

本県での分布は美馬郡脇町を流れる曾江谷川の香川県との県境付近が唯一の産地である。本種は香川県では広く分布しているが、阿讃山脈より南側の本県では産地が局地化している。また、香川県を流域とする河川は2河川あるが、本河川はその内の一つであり、もう一つの河川である日開谷川にも生息の可能性があるため調査が必要である。

生存に対する脅威

河川への生活排水、農業等の流入による水質悪化が懸念される。

キイロサナエ

Asiagomphus pryeri (Selys, 1883)

トンボ目サナエトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で本州、四国、九州に分布する。平地や丘陵地の砂泥底の緩やかな流れに生息する。

県内の生息状況

これまで徳島市、小松島市、勝浦町、羽ノ浦町、海部町等の記録があるが、生息地が局地化する傾向がある。既知の産地でも、生息条件が悪化し、個体数の減少が見られる。

生存に対する脅威

本種の幼虫は泥質の川底を好むが、このような環境は人の生活圏と重なっており、生活排水・農業の流入による水質汚染、水路の三面張り化は、生息地の減少につながる。

ホンサナエ

Gomphus postocularis Selys, 1869

トンボ目サナエトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で、北海道、本州、四国、九州に分布。平地から丘陵地の河川中流域に生息し、琵琶湖など大きな湖にも生息する。

県内の生息状況

これまでの記録は徳島市、鳴門市、板野町、小松島市、阿波町であるが、現在の確実な生息地は、圃瀬川の中流域と旧吉野川の板野町周辺だけである。既知の産地でも、生息条件が悪化し、個体数の減少が見られる。

生存に対する脅威

河川改修による環境変化や、水質汚染による生息地の消滅が心配される。

ルリボシヤンマ

Aeshna juncea (Linnaeus, 1758)

トンボ目ヤンマ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県が生息域の南限とされている。

分布の概要

北海道、本州、四国に分布し、徳島県が南限とされている。湿原や挺水植物が豊富な池沼に生息する。

県内の生息状況

池田町、東祖谷山村、西祖谷山村、美馬町、一宇村で記録がある。美馬町や一宇村の産地では池沼が樹木に覆われたり、公園化による池沼の護岸化などによって、産地が失われている。寒冷地を代表するヤンマであるが、本県が分布の南限とされていて、既知の生息地が失われつつある。

生存に対する脅威

山間部の湿地や池沼に限って生息しており、公園化等による開発がなければ発生は継続されるものと思われる。

ハネビロエゾトンボ

Somatochlora clavata Oguma, 1913

トンボ目エゾトンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

日本特産種で北海道、本州、四国、九州に分布するが産地は局地的である。平地から低山地の湿原の細流や挺水植物が繁茂した清らかな緩流などに生息。

県内の生息状況

徳島市、小松島市、阿南市、海部町、牟岐町、鶯敷町で記録があるが、産地は局所的で、個体数も非常に少ない。

生存に対する脅威

本種の好むような環境は開発の対象となりやすく、生息地そのものが消滅したり、環境悪化が懸念される。

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea Rambur, 1842

トンボ目トンボ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

トンボ科の中では最も小型の種として有名であり、環境指標種とされている。本州、四国、九州まで広く分布するが四国では産地は限定される。平地から低山地の日当たりのよい湿地や休耕田に生息する。

県内の生息状況

穴喰町、海部町に記録がある。現在も両町で確認できるが生息地は極めて局地的である。

生存に対する脅威

放置されたことによる生息環境悪化（乾燥化など）。

キュウシュウエゾゼミ

Tibicen kyushyuensis (Kato, 1926)

カメムシ目セミ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的である。

分布の概要

エゾゼミとほぼ同じかやや小型の種である。本州では、中国地方の広島県と島根県の一部だけに記録があり、四国では四国カルストと呼ばれる愛媛県と高知県にまたがる大野ヶ原一帯や石鎚山系などに分布するとされてきたが、実際には徳島県にも記録がある。九州では九重山系に多く、それより南では記録が少ない。

県内の生息状況

徳島県ではこれまで、わずかに2頭が得られているだけであり、正確な分布はつかめていない。これまでの記録は、東祖谷山村深淵から矢筈山への途中で得られた1♂と、那賀郡木頭村の石立山での1♂である。深淵から矢筈山の途中で得られた個体は、現在、徳島県立博物館に保管されており、貴重な標本である。本種は、四国では愛媛県の大野ヶ原など四国の西部にしか分布していないと思われるだけでなく、徳島県で得られている本種のこれらのデータは非常に貴重なものである。剣山山系のブナ帯を丹念に調査するとほかの場所にも生息しているのではないかと思われるが、ここ数年の調査では残念ながらまだ得られていない。

本種は、生息環境などの問題は把握できていないが、四国では非常に個体数の少ないものであり、現時点では希少な種としておくべきであると考ええる。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

コエゾゼミ

Tibicen bihamatus (Motschulsky, 1861)

カメムシ目セミ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的である。

分布の概要

北海道、本州、四国に分布する。山地性の種で、ブナ帯の広葉樹だけでなくモミなどの針葉樹にもよく止まる。梢や枝先の細いところを好んで止まり、鳴くときには逆さまになることが多い。

県内の生息状況

本種も、剣山周辺から高城山などのスーパー林道沿いにしか記録はなく、広域に分布しているという記録はない。20年ほど前には剣山の夫婦池周辺には多かったと記録されている。現時点では種の生存にすぐに結びつくような問題はないと思われるが、個体数はもともと多くない種であり、伐採などによる生息地の破壊は本種の生存にも影響する。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ルイスハンミョウ

Cicindela lewisi lewisi Bates, 1873

甲虫目ハンミョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危 II類

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州及び朝鮮半島、済州島、中国北東部に分布し、海に注ぐ河川の河口域や海岸砂浜に生息する。国内では河川改修、堤防工事など河口域における砂地の減少、海浜埋め立てによる生息地の急激な減少のため、わずかな産地が知られるにすぎない。

県内の生息状況

徳島県では、徳島市の吉野川河口域から勝浦川河口域まで生息していたが、多産地であった津田海岸は埋め立てられ、生息地は消滅した。沖ノ洲海岸も、現在の多産地となっている地域が流通港湾第二期工事で埋め立てられる予定になっているが、四国で唯一の産地で、全国的に見ても、最も個体数の多い生息地となっており、極めて貴重な場所であることを認識する必要がある。

生存に対する脅威

河川及び海浜工事（護岸）・埋め立てなどによる環境悪化・生息地の破壊。

ミヤマハンミョウ

Cicindela sachalinensis Morawitz, 1862

甲虫目ハンミョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

全国的に少なく、県内の産地も非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道、本州、四国と樺太に分布する山地性のハンミョウである。四国山地の海拔 1000m 以上の高所に分布するが、産地は局所的である。

県内の生息状況

徳島県からは麻植郡山川町高越山、三好郡東祖谷山村～美馬郡木屋平村の剣山、および那賀郡木沢村の槍戸川上流域で確認されているが、局地的である。いずれの場所も森林伐採などによる環境変化が起これば、生息できなくなる危険性は高い。

生存に対する脅威

生息地の消失、環境悪化。

フタモンマルクビゴミムシ

Nebria pulcherrima Bates, 1873

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選定理由

近年未確認

分布の概要

鮎喰川、吉野川の淡水域の水際に多かったが、現在はほとんど見られない。

県内の生息状況

1960年代前半頃までは吉野川や鮎喰川で普通に見られたが、1980年代には鮎喰川では見られなくなり、吉野川でも1985年以降ほとんど情報が無い。

生存に対する脅威

水質汚染、川原の汚染が進むと絶滅のおそれがある。

オオヒョウタンゴミムシ

Scarites sulcatus Olivier, 1795

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

海岸や河川の砂地に生息する大型のゴミムシ。巨大な大顎を持ち、ツヤのある美しい種である。本州から四国、九州に分布するが、近年、砂浜の減少に伴って生息地、個体数ともに減少している。

県内の生息状況

徳島県では、吉野川河口部の小松海岸から松茂町の月見が丘の海浜などに見られる。深い穴を掘って生活し、しかも夜行性のため昼間は見かけることは少ない。夜間には餌を求めて活動している本種を見ることができる。砂浜が無くなると本種は生息できない。現時点ではまだ生息が確認できるが、海岸の埋め立てや空港の滑走路の延長に伴って計画されている人工海浜への改変など、本種の生息に関係した問題は多い。

生存に対する脅威

埋め立てや護岸工事、開発などによる生息地の破壊。

ウミホソチビゴミムシ

Perileptus morimotoi S.Ueno, 1955

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

吉野川河口域に生息するが、個体数は極めて少ない。

県内の生息状況

ほとんど情報がなく、正確な評価はしにくい。吉野川河口域の環境が破壊されると、本種の生存は危ぶまれる。

生存に対する脅威

干潟やアシ群落の消失は生息地の消滅につながる。

オオアオズミズギワゴミムシ

Bembidion lissonotum Bates, 1873

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州、対馬から朝鮮半島シベリアなどに分布する。

県内の生息状況

ミズギワゴミムシ類は水辺にしか生息しないうえに、分布が非常に局地的であるものが多い。本種の分布は広いが、最近ほとんど見かけなくなっている。

生存に対する脅威

河川の汚染。

ヒトツメアオゴミムシ

Chlaenius deliciolus Bates, 1873

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国、九州、対馬から朝鮮半島シベリアなどに分布。
平地の河川敷や草地に生息する種で、徳島市の鮎喰川や吉野川河川敷などで見られたが、近年はほとんど見ることができない。

県内の生息状況

きわめて個体数が少なく、情報も少ない。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）などによる環境悪化。

オオサカアオゴミムシ

Chlaenius pericallus Redtenbacher, 1867

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州、四国に分布。
平地の河川敷や草地に生息する種で、徳島市の鮎喰川や吉野川河川敷などで見られたが、近年はほとんど見ることができない。

県内の生息状況

ほとんど採集されない。近年の情報が少なくなっている。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）などによる環境悪化。

ミナミツヤハダクワガタ

Ceruchus lignarius nodai Fujita, 1987

甲虫目クワガタムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

ツヤハダクワガタの四国・九州亜種である。一見するとクワガタムシには見えないような形態をしている。日中、夜間を問わず成虫を見かけることはほとんどないほど少ない種である。

県内の生息状況

剣山の見ノ越付近やスーパー林道沿いなどに記録があるが、きわめて少ない。幼虫が褐色の腐朽菌のついた材にしか入らないので、このような材がなければまず発見できない。幼虫はブナ帯（あるいは少し下部まで）のかなり太い倒木に入るようである。ブナやミズナラなどの大木の倒木があっても、腐朽菌の付き方で産卵する場所を選んでいるといわれ、発見はなかなか難しい種である。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

オオクワガタ

Dorcus curvidens binodulosus Waterhouse, 1874

甲虫目クワガタムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

これまで徳島県では確実な記録としてはなかったが、最近、生息が確認された。採集圧がきわめて影響しやすい。

県内の生息状況

現時点では、はっきりと徳島県産と確認できた標本はごくわずかであり、県内の分布の概要も十分にはつかめていない。ヒラタクワガタを間違えて本種という人も多いため、一般の人の「ウワサ」では非常に危険である。最近、飼育されたオオクワガタが、ペットショップなどで簡単に入手できるようになっており、それらの逃亡なども考慮に入れなければならなくなってきている。もともと里山の種であり、剣山山系などには分布しないものである。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化、もっとも心配されるのは採集圧である。

ツノクロツヤムシ

Cylindrocaulus patalis (Lewis, 1883)

甲虫目クロツヤムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

四国と九州に分布するが、ブナ帯でしか見つからない。幼虫もブナなどの枯れ材中で生活する。家族生活をすることで有名な種である。

県内の生息状況

徳島県ではブナ帯に比較的によく見られるが、個体数はそれほど多くはなく、ブナ林などの減少で直接影響を受ける種の一つである。現在は、スーパー林道沿いのブナ林内にある倒木（ブナ）などから見つかることが多い。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

オオチャイロハナムグリ

Osmoderma opicum Lewis, 1887

甲虫目コガネムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から屋久島まで分布するが、個体数は少なく、大木の樹洞内の腐植土で幼虫が育つため、伐採などでこのような木がなくなると激減する。

県内の生息状況

三好郡東祖谷山村、西祖谷山村などで知られている。本種の幼虫は、大木のウロ内の腐植土を食べて成育するため、本種の生息環境として大きな木で、中が空洞化した木が必要である。本種は独特の臭気を出すので、かなり離れていても臭いがする。臭いがわかると発見は比較的容易である。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

コガタヒメサビキコリ

Agrypnus hypnicola (Kishii, 1964)

甲虫目コメツキムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から九州までの川原や海浜の砂礫地に分布するが、生息地は局所的である。

県内の生息状況

徳島県からは、吉野川河口の沖ノ洲海岸でしか確認されていない。

生存に対する脅威

河川工事（護岸）などによる環境悪化。埋め立てや開発などによる生息地の破壊。

オオウバタマコメツキ

Cryptalaus yamato (Nakane, 1957)

甲虫目コメツキムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本種は奈良県春日山から記載された。コメツキムシとしては大型の種である。近畿から九州まで分布するが、四国では香川県の象頭山と、徳島県三好郡池田町の善蔵寺からしか記録がない。

県内の生息状況

これまで善蔵寺での1頭しか記録が無いため、本種の生息状況はほとんど把握できていない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ツルギ(シコク)ミヤマヒサゴコメツキ

Hypolithus motschulskyi tsurugi Ohira, 1963

甲虫目コメツキムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

徳島県の剣山山系にのみ分布する。以前は四国のものは一種とされていたが、のちに、石鎚山系のもの、高越山のものそれぞれ別亜種として扱われている。

県内の生息状況

亜種レベルではあるが、コウツミヤマヒサゴコメツキ (P.180) と同じく、産地が極限されており、しかも個体数は少ない。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化。

ルリヒラタムシ

Cucujus mnischechi Grouvelle, 1874

甲虫目ヒラタムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道から九州まで分布するが、ブナ帯でしか見られず、いずれの地でも個体数は少ない。

県内の生息状況

九州でも非常に個体数の少ない種であったが、脊梁山地の原生林の下草のスウィープで複数個体が採集されたことがある。しかし、四国ではそのような例はほとんどなく、きわめて個体数の少ない種である。幼虫の生活史なども詳細には判明していない。剣山山系の見ノ越周辺や祖谷溪などで知られているが、個体数は少ない。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化。

ヒラズゲンセイ

Cissites cephalotes (Olivier, 1795)

甲虫目ツチハンミョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的で個体数も少ない。

分布の概要

以前はトサヒラズゲンセイとして知られていた種である。四国から南西諸島（屋久島や石垣島など）に分布するが、いずれの地域でも個体数は少なく、なぜか高知県のみには年間数百頭の記録が出るほど多産する。愛媛県、香川県にはこれまでのところ記録がない。クマバチの巣に関係した生活をしていることは間違いないが、幼生期の詳細は不明。

県内の生息状況

県内では、30-40年前ころ、学校の校舎が木造の時代には、小松島市や徳島市、勝浦町などで、木造校舎の壁内のクマバチの巣と関係した本種が、毎年とっていいくらい発見されていたが、近年、クマバチが営巣できるような場所が急激に減少し、きわめて少なくなっている。農家の作業用の小屋などもなくなりつつあり、目につく機会も減っているようである。1998年に5頭発見されたのは非常に珍しい記録であり、ここ20年間ほどは、数年間に1頭の発見例があるかどうかという状態であった。しかし、その後県内の複数箇所でも、発生していると考えられる場所が見つかり、今後さらに調査を続けていく必要がある。継続的に発生していると考えられる場所でも、数年後にまったく見られなくなるのが高知県での調査で判明しており、本種のような複雑な生活史を持つと思われる寄生性昆虫の安定した発生地を見つけるのは困難なようである。

生存に対する脅威

クマバチが営巣できるような場所の減少が最大の要因と考えられる。

フタスジカタビロハナカミキリ

Brachyta bifasciata japonica (Matsushita, 1933)

甲虫目カミキリムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

個体数が近年減少してきている。

分布の概要

ハナカミキリの中でも比較的大型で美しい種である。成虫は 4-5 月に出現し、ヤマシャクヤクの花や花粉を食べている。

県内の生息状況

高越山や剣山などの海拔 600m 以上のところで発見されている。ヤマシャクヤク以外の花を訪れることはかなり稀。ヤマシャクヤクを訪れた成虫は花びらや花粉などを食し、しばらく同じ花の中にとどまるようである。交尾もヤマシャクヤクの花の中や花上で行われる。このように、ヤマシャクヤクと密接に関係しているため、ヤマシャクヤクが愛好家によって盗掘され、減少するにつれて本種も少なくなった。

生存に対する脅威

幼虫や成虫の食樹・食草などの減少。

クロオビシロタマゾウムシ

Cionus latefasciatus Voss, 1956

甲虫目ゾウムシ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数が近年減少してきている。

分布の概要

剣山の 1800m 付近からしか得られていない。

県内の生息状況

本種の食草はオオヒナノウスツボであり、生息地ではこの植物に多数ついているが、ほかの地域では食草があっても見ることができない。

生存に対する脅威

幼虫や成虫の食樹・食草などの減少。

ヒサマツミドリシジミ

Chrysozephyrus hisamatsusanus (Nagami & Ishiga, 1935)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から九州まで分布する。幼虫の食樹がウラジロガシであることがわかったのは今から 25 年ほど前のことであり、日本産ゼフィルスの中で最も遅かった。常緑ガシであるウラジロガシがなければ本種が生息することはできない。ウラジロガシを含む樹林の保護が最も大切である。四国では、徳島県、高知県の中北部（馬路村、土佐山田町、物部村など）と愛媛県石鎚山系、成川渓谷などで記録がある。

県内の生息状況

徳島県では海部郡、木頭村で知られている。四国でもきわめてめずらしい種である。もともと産地が局所的であり個体数も多くない。森林の伐採により、食樹の減少が懸念される。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ミヤマカラスシジミ

Strymonidia mera (Janson, 1877)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道（渡島半島）、本州（東北から中部）、中国地方の日本海側、四国では剣山山系と石鎚山系の2箇所、九州の中北部という変わった分布をしている。幼虫はクロウメモドキ類を食樹としている。

県内の生息状況

徳島県では剣山系、木頭村に分布する。もともと個体数は多くない。近年、かなり個体数が減少していると思われる。原生林の伐採、植林の影響かも知れない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ベニモンカラスシジミ 四国亜種

Strymonidia iyonis iyonis Ota & Kusunoki, 1957

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本種は愛媛県皿が峰産の個体に基づいて記載された種で、愛媛県特産種と見られていたが、その後、岡山県の石灰岩地帯で再発見され、本州中部（長野県まで）の石灰岩地帯に分布していることが判明した。九州には分布しない。

四国では、愛媛県の皿が峰は絶滅状態であり、木頭村と高知県の一部にしか見られなくなった。幼虫はクロウメモドキのなかまを食樹としている。

県内の生息状況

徳島県では木頭村周辺にしか分布しない。冬期に卵を調査すればかなり見つかることもあるが、野外での成虫の個体数は多くはない。原生林の伐採による食樹の減少や、環境の悪化に注意しなければならない。

生存に対する脅威

伐採による食樹・生息地の消失、環境悪化、採集圧。

クロツバメシジミ

Tongeia fischeri (Eversmann, 1843)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

中部山系と、それから離れて、四国の北側半分、中国地方の瀬戸内沿岸一体、及び九州の中部までという不思議な分布をする種である。岩場や、古い人家の屋根や石垣などに生えるベンケイソウ科のツメレンゲなどを食草としており、産地は局所的である。

分布が断続的であるために、裏面の斑紋変異などがよく知られており、分布などもよく調べられている種である。

県内の生息状況

徳島県では、剣山を中心として上勝町、上那賀町、木頭村高ノ瀬峡、木沢村、西祖谷山村善徳、東祖谷山村、池田町などから知られているが、いずれの発生地も不安定で、食草が道路の拡張工事や、古い民家の改築などによって瞬間的に消えることもある。本種の保護を考えると、安定した食草の生える場所の確保が一番である。

生存に対する脅威

幼虫の食樹・食草などの減少。

シルビアシジミ

Zizina otis emelina (de l'Orza, 1869)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

西南日本（関東地方南部から東海地方、中国地方、近畿、四国、九州以南）に分布する種で南方系の種である。近年、食草の減少にともなうと考えられる個体数の減少あるいは発生地の消滅が続き、各地で絶滅が心配されている。

県内の生息状況

徳島県では、徳島市吉野川河川敷、阿波郡土成町土柱、脇町、高越山、海部町那佐海岸などで記録されていたが、近年ほとんど見られなくなった。かろうじて吉野川中流域（穴吹町付近）で少数の個体が見られるのみ。食草の減少（人手が入らなくなったために食草がほかの植物に被われて育たなくなった？）がいちばん大きな原因と考えられるが、生息に適した環境の維持は難しい。

生存に対する脅威

幼虫の食草の減少など。

ツマジロウラジャノメ四国亜種

Lasiommata deidamia kampuzana Y.Yamazaki, 1981

チョウ・ガ目ジャノメチョウ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本種は、国内ではかなり特異な分布をする種で、北海道の日高山脈に産するものを別亜種と考えると、本州の東北地方の高山、中部山岳地帯の一部、紀伊半島の中央部の高所、それに四国では剣山と愛媛県の石鎚山の2箇所に離れて分布する。地質時代の寒冷期の置きみやげ的な分布であることは間違いない。

県内の生息状況

徳島県では剣山山系の見ノ越あたりから上に見られ、幼虫はノガリヤス類を食草としている。最近、個体数が減少している。生息環境の悪化（道路の開通など）、食草の減少などが影響しているかもしれない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化や、道路拡張などによる崖の食草の減少など。

セアカオサムシ

Hemicarabus tuberculatus (Dejean et Boisduval, 1829)

甲虫目オサムシ科

徳島県カテゴリ

地域個体群

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的であり、個体数も近年減少してきている。

分布の概要

北海道から九州までの山地の草原に広く分布するが、比較的高いところに産し、個体数も多くない。前胸背板が赤みを帯びるので種の識別は容易である。

県内の生息状況

徳島県では、三好郡山城町と愛媛県新宮町との境に位置する塩塚高原と、西祖谷山村の腕山牧場の2箇所でしか記録が無く、分布が狭い地域に限定されている。しかも個体数は少なく、四国の本種の分布はかなり特異である。

生存に対する脅威

草原の減少が起こり、樹木に覆われるような環境になると本種は生息できなくなる。

コウツミヤマヒサゴメツキ

Hypolithus motschulskyi kurotai Ohira, 1994

甲虫目コメツキムシ科

徳島県カテゴリ

地域個体群

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

初めはツルギ（シコク）ミヤマヒサゴメツキ（P.175）として記録されたものであるが、後に高越山特産の亜種とされたものである。

県内の生息状況

高越山だけしか記録がなく、成虫は5月頃に見られ、夏季には全く発見できない。種としてではなく、亜種としての扱いであるが、高越山にみに生息する亜種であり、地域個体群としての重要性を持つ意味もある。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化。

マダラナニワトンボ

Sympetrum maculatum Oguma, 1915

トンボ目トンボ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

絶滅期Ⅰ類

選 定 理 由

近年未確認である。

分布の概要

日本特産種で本州に生息するが、産地はきわめて局地的で、各産地での個体数の減少が著しい。丘陵地から低山地の松林に囲まれた挺水植物の繁茂する浅い池沼に生息する。

県内の生息状況

板野町で1987年に幼虫の記録があるのみで、成虫の記録はない。四国でも確実な記録はなく、同定ミスの可能性が高く再確認はかなり困難と思われる。

エゾゼミ

Tibicen japonicus (Kato, 1925)

カメムシ目セミ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的である。

分布の概要

かなり大型のセミである。5-600mほどの山地からブナ帯などの高いところにすみ、7月中旬くらいから9月ころまで見られる。ギーという低い声でなく、鳴き声は聞こえてもほとんど見えない場合が多い。高度的には剣山山系の見ノ越などではすでにコエゾゼミがほとんどで、本種はそれよりも少し低いところにいる。スギなどの針葉樹に止まっていることが多い。

県内の生息状況

残念ながら本種に関する記録はほとんどない。徳島県立博物館には徳島市の八多町五滝で採集された古い標本が1個体だけ保存されているが、これは五滝の背景にある中津峠山に生息していたものが、谷筋に沿って降りてきたものであろうと考えられる。

この類は、鳴き声だけでの種の同定は危険であるが、県内でもあちこちに生息していることは間違いないと思われる。もともと個体数のそれほど多くない種であるが、徳島県では多産する場所が知られておらず、意外に少ない種かもしれない。しかしながら、これまでに得られた標本や記録があまりにも少ない。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ヨツバコガネ

Ohkubous ferrieri (Nonfried, 1895)

鱗翅目コガネムシ科

徳島県カテゴリ

報不足

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道から屋久島まで広く分布することが知られていたが、生息地は局所的。徳島県からは穴吹町の一部でしか生息を確認できていない。

県内の生息状況

個体数は非常に少なく、県内の状況を把握できるほどの記録もない。

生存に対する脅威

広葉樹の大木の腐朽部に生息することから、このような樹木が無くなると生息できない。

オオイトトンボ

Cercion sieboldii (Selys, 1876)

トンボ目イトトンボ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

北海道・本州・四国・九州に分布する。

県内の生息状況

平地や丘陵地の挺水植物・浮葉植物の繁茂する池沼や湿地・溝川等に生息し、四国での成虫出現期は4月中旬～11月中旬である。

生存に対する脅威

ほ場整備、湿地・休耕田の乾燥化、池沼の埋め立て等により、生息地そのものが失われている。

ミナミヤンマ

Chlorogomphus brunneus costalis Asahina, 1949

トンボ目オニヤンマ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

本県が生息域の北限とされている。

分布の概要

四国の太平洋岸、九州、南西諸島、奄美大島等に分布し、徳島県が北限とされている。山間の森林に囲まれた溪流に生息する。

県内の生息状況

徳島市、勝浦町、上勝町、池田町、山城町、山川町、日和佐町、海部町、牟岐町、穴喰町で記録がある。日和佐町、海部町では確実に生息を確認できるが、他では個体数が少なく希のようである。徳島市が本種の北限とされており、♀には顕著な地域変異が見られ、徳島産の四翅の前縁の黒いバンドがほとんど消失する傾向にある。

生存に対する脅威

山林の伐採や植林による生息地の減少が考えられる。

クロヒラタオオキノコムシ

Renania atrocyanea Lewis, 1887

甲虫目オオキノコムシ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

近年未確認

分布の概要

高越山で 1971 年に採集された 1 頭以後、報告がない。

県内の生息状況

上記の 1 頭以外記録がない。繰り返し調査しているが、その後の追加標本は得られていない。絶滅が心配されるほどではないとしても、非常に個体数は少ない種である。

生存に対する脅威

森林の伐採による生息地の消失、環境悪化（乾燥）。

ベーツヒラタカミキリ

Eurypoda batesi Gahan, 1894

甲虫目カミキリムシ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から、南西諸島まで広く分布し、シイの大木の洞の中に生息する。シイの古木がないと発見できない。成虫は夜行性で、夜間にシイの木上を歩き回ったり、灯火に飛来したりする。昼間は樹洞内や樹皮のすき間、脱出口内などに隠れている。

県内の生息状況

徳島県では、県東部・南部の常緑広葉樹林帯で記録されているが、県南部にはより多くの産地があるのではないかと考えられる。県西部の三加茂町や池田町などでもシイの古木が見られるので、本種が発見される可能性は高い。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

ミカドアゲハ

Graphium doson albidum (Wileman, 1903)

チョウ・ガ目アゲハチョウ科

徳島県カテゴリ

留意

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

もともと南方系の種で、本州の紀伊半島南部や四国、九州から南西諸島に分布する。徳島県では、県南地方から徳島市眉山周辺などで見られるが、吉野川よりも北岸ではまだ記録がない。食樹であるオガタマノキが神社に植えられることが多く、神社林などで見つかることが多い。

県内の生息状況

本県で初めて本種の分布が確認されたのは 1950 年である。海部郡日和佐町のオガタマノキで発生しているのが確認されたもので、当然それ以前から県南部には生息していたものと思われる。本種は幼虫の食樹であるモクレン科のオガタマノキと密接な関係があり、オガタマノキがなければまず見ることができない種であった。しかし、近年、植栽された同じモクレン科のタイサンボクでも発生が可能ということがわかり、タイサンボクの植栽が増えるにつれ、以前よりも個体数は増えた感がある。しかし、いずれにしても多数の個体を見ることはまれで、めずらしい種であるといえる。

生存に対する脅威

幼虫の食樹・食草などの減少。

オナガシジミ

Araragi enthea enthea (Janson, 1877)

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

留意

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から九州まで広く分布している。幼虫はオニグルミなどのクルミ類の新芽を食べる。国内としてみればそれほど個体数が少ない種ではないが、四国では産地は局所的で、個体数も少ない。

県内の生息状況

剣山富士の池付近、三好郡東祖谷山村、西祖谷山村、土成町などで知られている。もともと個体数は少ない。四国ではほとんどの産地でオニグルミを利用しており、オニグルミが河川敷から河川脇の土手などに多いために、河川改修、道路の改良工事などで食樹の減少が懸念される。

生存に対する脅威

幼虫の食樹・食草などの減少。

ウラクロシジミ

Iratsume orsedice orsedice (Butler, [1882])

チョウ・ガ目シジミチョウ科

徳島県カテゴリ

留意

県庁カテゴリ

該当なし

選定理由

県内の産地が非常に局地的で個体数も少ない。

分布の概要

本州から九州まで分布するが、九州では祖母山系などの一部の地域にしかおらず、非常に少ない種である。幼虫の食樹はマンサクである。

県内の生息状況

徳島県では、剣山系、東祖谷山村深淵、神山町、高越山、上勝町などで知られている。植林や伐採などによって生息環境が悪化している。食樹の保護（原生林の保護）が必要と思われる。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。

オオムラサキ

Sasakia charonda charonda (Hewitson, [1863])

チョウ・ガ目タテハチョウ科

徳島県カテゴリ

留意

県庁カテゴリ

絶滅危

選定理由

個体数が近年減少してきている。

分布の概要

北海道から九州まで広く分布するが、北海道では札幌周辺だけ、九州ではやや山地性となり、鹿児島県の中南部には生息していない。四国では平地から中山地まで見られ、まだかなり個体数は多い方であるが、九州や本州、特に関東の平野部ではかなり少なくなっている。

県内の生息状況

徳島県では、徳島市眉山や多家良町中津峰山、勝浦町鶴林寺山、上勝町藤川、上那賀町をはじめ、高越山、山城町など各地に見られる。それほど個体数が多いことはないが、現在のところ、継続して発生しているようである。しかし、幼虫の食樹であるエノキが人家周辺では少なくなりつつあり、場所によってはかなり個体数の減少が起きているようである。幼虫の食樹の保護と同時に、成虫の栄養源であるクヌギの樹液などを確保することも大切である。

生存に対する脅威

伐採による生息地の消失、環境悪化。